

平成14年度 冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成14年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成15年9月11日(木)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験7剤、

適用性試験20剤で、生育調節剤はなかった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成14年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

I. 適用性試験

(1) 小 麦

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. AK-01 液剤 ・グリサートイソプロピル ・アミン塩 41%	実・継	一年生 雑草全 般	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 50～100L	全土壌		1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・多年生イネ科雑草に対する効果の確認
2. ANK-553 乳剤 ・ベンディメタリン 30%	実・継 (従来 通り)	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 小麦1～2葉 期	300～500 mL 散布水量 70～100L	全土壌 (砂土を 除く)	北海道 ～四国	1) 覆土が著しく浅い場合には 薬害が出やすいので注意する。 2) 小麦1～2葉期処理では、スズメ ノカブに効果が劣る。	・北海道での出芽直前～ 出芽摘処理における効果、 薬害の確認
3. BAG-014 フロアール剤 ・ベンディメタリン 800g/L ・ピコリファエン 16g/L	継								・効果、薬害の確認

注) _____ は、拡大された部分を、_____ は、一部拡大されたことを示す。

薬剤名の _____ は、初めて使用基準が作成されたことを示す。

(1) 小 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
4. DPX-16 顆粒水和剤 ・チフェスルフロニメチル 75%	実・継	一年生 広葉雑 草、スズ メノテッポウ	土壌ま たは茎 葉兼土 壌	播種後～節 間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～ 小麦2葉 期処理は 水量100L、 10gの小麦 3葉期以 降の処理 は水量25 ～100L)	全土壌 (砂土を 除く)	東北～ 四国	1) 単用での茎葉 処理の場合は、 7.5～10g/10a での使用が望 ましい。 2) 少水量散布(25 L/10a)の場合 は専用ノズル を使用する。 3) 播種後処理で はエムケウに効 果が劣る。 4) 処理後散布器 具をよく洗浄 する。	・散布水量の 拡大
				小麦1葉～ 節間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで			九州		
				幼穂形成期	7.5～10g 散布水量 100L		北海道		
6. KNW-504 顆粒水和剤 ・フルフェナセット 60%	継								・効果、薬害 の確認(と くに適用草 種の検討)
7. MK-243 顆粒水和剤 ・インダノファン 50%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後～小 麦2葉期 (イネ科雑草 1葉期まで)	60～100g (九州は 80～100g) 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)			・効果の確認
9. MON-93A 液剤 ・グリホサートアンモニウム 塩 33%	実・継	多年生 イネ科 雑草	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	250mL 散布水量 25～50L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の 場合は専用ノ ズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。	・散布水量の 拡大
					500mL 散布水量 50～100L				
10. MON-96A 液剤 ・グリホサートアンモニウム 塩 41%	実・継	多年生 イネ科 雑草	茎葉	耕起3日以 前 雑草生育期	250mL 散布水量 25～50L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の 場合は専用ノ ズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。	・耕起3日前 処理におけ る散布水量 の拡大
					500mL 散布水量 50～100L				
		一年生 雑草全 般		耕起10日以 前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L				
				播種後出芽 前(雑草生 育期)	250～500 mL 散布水量 50L		東北～ 四国		

(1) 小 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
11. NC-362 水和剤 ・ジフルフェニカン 4% ・IPC 30%	実	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 雑草発生前	200～250g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	北海道	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行って均一 に散布する。 2) 覆土深が浅く ならないよう に注意する。 3) 一過性の白斑 を生じること がある。 4) 低薬量では、生 育の進んだス ムカビに効果 が劣る場合が ある。	
			茎葉兼 土壌	小麦1～2葉 期	120～200g 散布水量 100L				
				小麦2～4葉 期	200～250g 散布水量 100L				
				小麦2～3葉 期	150～200g 散布水量 100L		東北以 南		
12. NC-601 顆粒水和剤 ・インタノファン 42% ・ジフルフェニカン 13%	継								・ 効果、薬害 の確認
13. NH-007 フロアブル剤 ・ピラフルフェニル 0.16% ・グリホサートイソプロピ ルアミン塩 30%	継								・ 効果、薬害 の確認
14. SYJ-100 乳剤 ・プロスルホカルブ 800g/L	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	400～500 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	東北以 南		・ 麦1～2葉期 処理での効 果、薬害の 確認 ・ 北海道にお ける効果、 薬害の確認
15. ZK-122 液剤 ・グリホサートカリウム塩 43%	実・継	多年生 イネ科 雑草	茎葉	耕起5日以 前 雑草生育期	500～750 mL 散布水量 50L	全土壌	北海道	1) 専用ノズルを 使用する。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。	・ 耕起3日以 前処理での 効果、薬害 の確認 ・ 散布水量の 拡大
16. アイオシニル フロアブル剤 ・アイオシニル 6%	実	一年生 広葉雑 草	茎葉	幼穂形成期、 雑草発生揃	700～800 mL 散布水量 100L	全土壌	北海道		

(2) 大 麦

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. DPX-16 顆粒水和剤 ・チフェスルフロニメチル 75%	実・継	一年生 広葉雑 草、スズメ ノテツボウ	土壌ま たは茎 葉兼土 壌	播種後～節 間伸長前 スズメノテツボウ 5葉期まで 大麦1葉～ 節間伸長前 スズメノテツボウ 5葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～ 大麦2葉 期処理は 水量100L)	全土壌 (砂土を 除く)	東北～ 四国 九州	1) 単用での茎葉 処理の場合は、 7.5～10g/10a での使用が望 ましい。 2) 播種後処理で はエムゲラに効 果が劣る。 3) 処理後散布器 具をよく洗浄 する。	・ 散布水量の 拡大
2. KNW-504 顆粒水和剤 ・フルフェナセツ 60%	継								・ 効果、薬害 の確認（と くに適用草 種の検討）
3. MK-243 顆粒水和剤 ・インダノファン 50%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後～大 麦2葉期 (イネ科雑草 1葉期まで)	60～100g (九州は 80～100g) 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	東北以 南		・ 効果の確認
4. SYJ-100 乳剤 ・フーロシホカルブ 800g/L	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	400～500 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	東北以 南		・ 麦1～2葉期 処理での効 果、薬害の 確認

(3) 水稻刈跡

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. ZK-122 液剤 ・グリホサートナトリウム塩 43%	継								・ 効果、薬害 の確認

(4) 水田畦畔

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/10a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. DBN6.7 粒剤 ・DBN 6.7%	継								・ 効果、薬害 の確認